

# よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙顕寺

長音山 本誓寺

『よらぬじぶ』10

貫首

齊藤

日軌

皆様、あけましておめでとうございます。新年のおよろこびを申しあげます。正月一日は昔から、一年中で最も意義深い日とされお祝いされてきました。

日蓮大聖人様は『十字御書』に、「正月の一日は日のはじめ、月の始め、としのはじめ、春の始め。これをもてなす人は月の西より東をさしてみつがごとく、日の東より西へわたりてあきらかなるがごとく、とく（徳）もまさり人にもあいせられ候ふなり」

とお示しのように正月の元日は、日を始め、月の始め、年の始め、春の始めです。この日を大切にすることは、たとえば月が西から東をさして満ちていくように、日が東から西に渡って照らすように、内には人徳を積み、外には人から敬愛されるのです。

「一年の計は元旦にあり」と申しますが、元旦を大切にすることは一年を大切にすることであり、自分の人生を大事にすることになります。年頭に当たり、皆様の一年の「よろこびを」お祈りします。元旦零時の参り及新年盛運祈願祭には、是非、題目でご一緒に一年の「よろこび」をお祈りいたしましょう。



## みおしえ（本当の自分）

自分とは何か、どこから来たのか。私達が本当に求めるべき自分を真我、仏性、九識と申します。釈尊は、本当の自分を求め、修行生活に入り、瞑想の中で偽の自分を偽我として一切の煩惱と共に棄て去り、無我とされましたが、それは偽りの自己を無我と棄て去り、大いなる真実の自己を発見、悟られたのです。

この大いなる自己を真の己として確立し、仏法により生活することを釈尊は、「自灯明、法灯明」の遺訓とされ「比丘たちよ、汝らはまさに自己を灯明とし、法を灯明として、他を灯明とすることなかれ。まさに自己に帰依し、法に帰依して、他に帰依することなかれ」とお諭しになりました。発見すべき本当の自分は、それによって生きるべき本当の自分であり、南無妙法蓮華経と申します。本当の自分に頼り、法に頼り生きることこそ南無妙法蓮華経と申します。この妙法蓮華経こそよろこびの自己であり、南無妙法蓮華経とはよろこびに生きることです。

## 心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え、よろこびの自己で、よろこびの生活をしましょう。

